山口県における 2017 年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告 : 山口県医師会常任理事　沖中　芳彦]

2016 年（昨年）のシーズンは、県内測定施設の平均値として、約 1,750 個 /cm^2 というスギ花粉総数を予測しましたが、スギ花粉の飛散期に降水機会が多く、特に 2 回の大量飛散日の翌日にいずれも雨が降ったことや、山口宇部空港が閉鎖されるほどの大雪も含めて、何度かの降雪もあったことから、実測値は、予測の約 70％の 1,240 個 /cm^2 でした。その結果、昨シーズンまで 3 年連続で平年を下回り、また同じく 3 年連続して前年を下回るスギ花粉総数となっていましたが、2016 年の夏は猛暑の日々となり、その影響によると思われる前年秋のスギ雄花の良好な着花状態から、今シーズンのスギ花粉総数を、平年値（直近 10 年間の平均）2,530 個 /cm^2 に対し、3,700 個 /cm^2 と予測しました（本会報 2017 年 1 月号参照）。

今年のスギ花粉シーズンは特に雨が多いということもありませんでしたが、花粉飛散総数の実測値は、予測の約 85％の 3,140 個 /cm^2 と予測をやや下回る数となりました。しかし、4 年ぶりに 3,000 個以上の大量飛散となり、花粉症の方々には辛いシーズンであったと思います（**図 1**）。

地区別の飛散には例年と異なる状況がみられました。北部の美祢や東部の光・柳井で多かったのは例年通りですが、毎年、比較的多い北部の長門において、西部地区とほぼ同程度の飛散となりました。また、四方を海に囲まれているためか例年は少ない周防大島で多くのスギ花粉が捕集されました（**図 2**）。なお、山口県の今シーズンのスギ花粉飛散開始日は 1 月 30 日でしたが、その後、

図 1　年別スギ・ヒノキ花粉総数

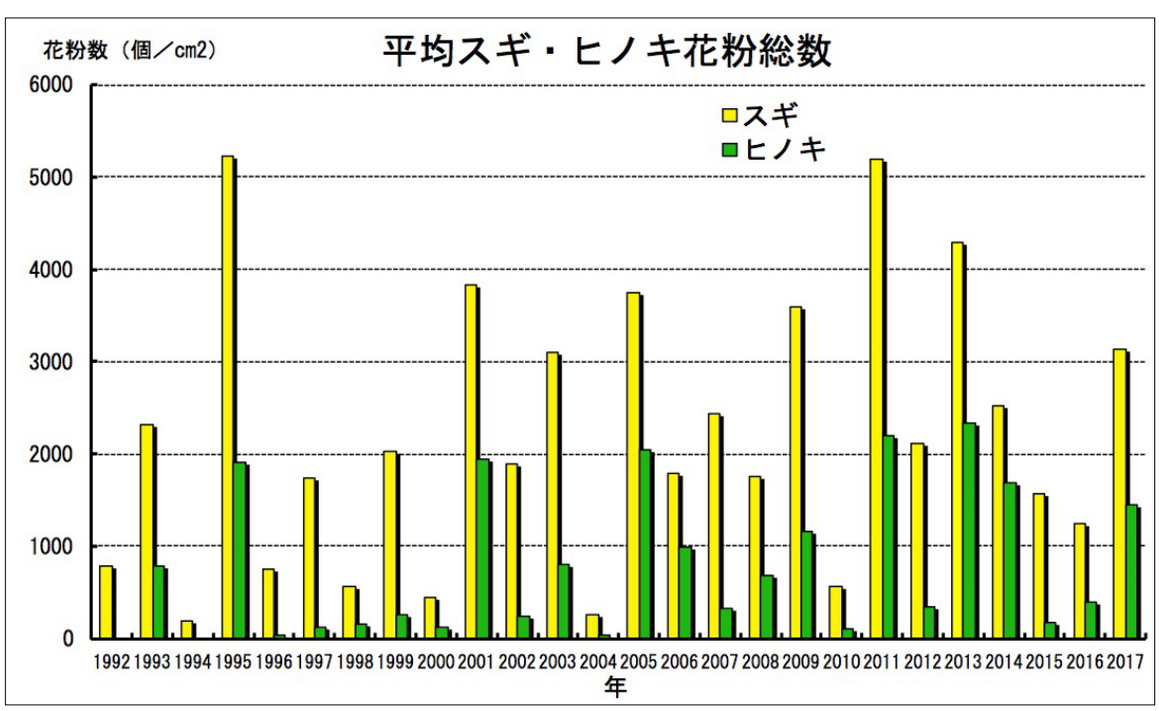


図 2　測定機関別スギ花粉総数

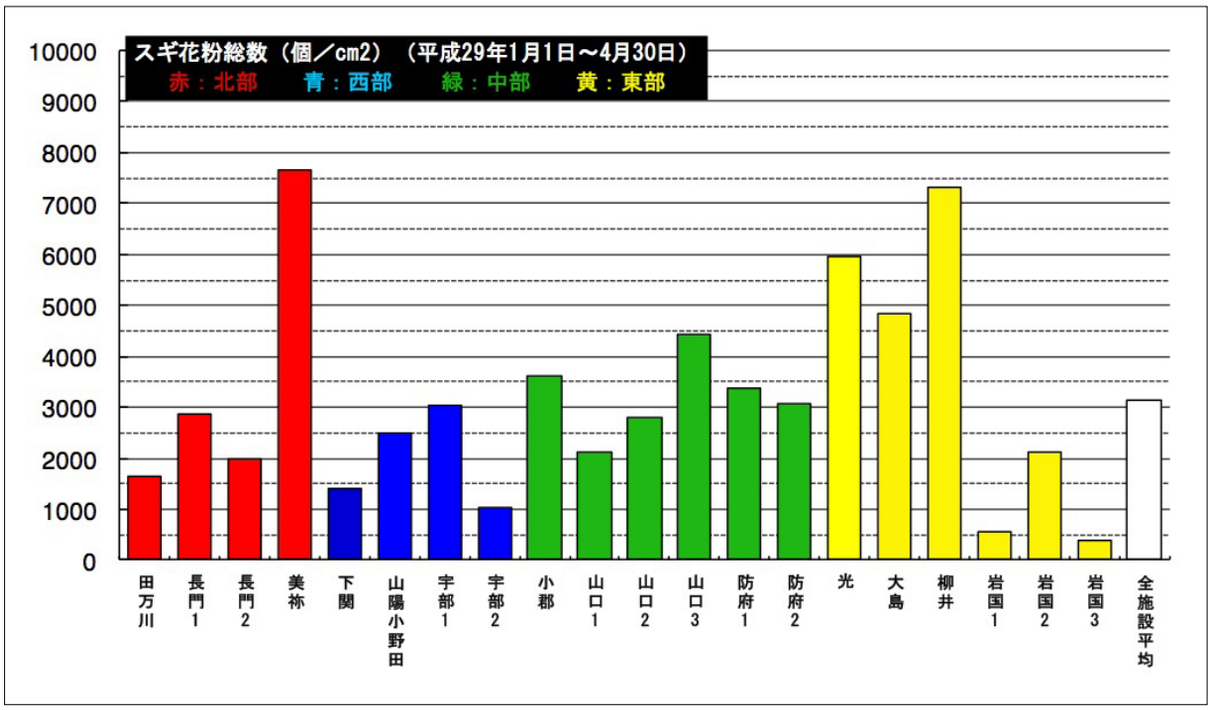
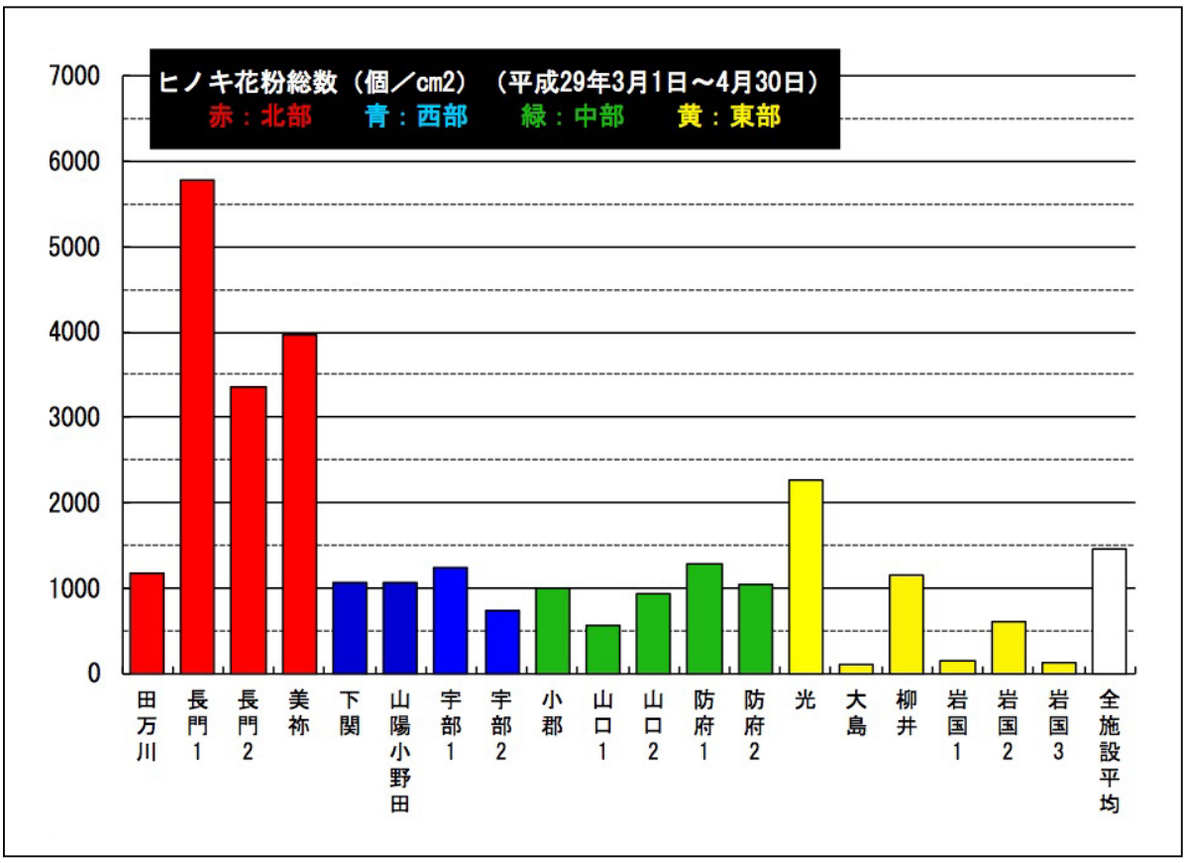


図 3　測定機関別ヒノキ花粉総数



気温の低い日が続いたため、県内全域で飛散が本格化したのは 2 月中旬でした。最多飛散日は昨年より 1 日遅い 3 月 6 日でした。

一方、昨シーズンのヒノキは、北部の観察定点における花芽の着き具合から多くなると思われましたが、実測値は平年値（990 個 /cm^2）を大きく下回る約 390 個 /cm^2 という非常に少ない捕集数となりました。今シーズンは前年秋の時点で、多くの木で昨シーズン以上に花芽が着いているように思われました。実測値は 4 月 30 日までで 1,450 個 /cm^2 と、平年値（930 個 /cm^2）を上回る捕集数となりました。最多飛散日は昨年より 7 日遅い 4 月 9 日でした。地区別の飛散分布はスギと異なり、北部の長門地区で多くの花粉が捕集されました（**図 1 、3**）。

これらの結果、2017 年のシーズンが終わった時点でのスギ花粉総数の平年値は 2,600 個 /cm^2 となり（**図 4**）、ヒノキ花粉の平年値は 1,040 個 /cm^2 となりました。

山口県医師会花粉情報委員会は発足から 20 年以上が経過しました。長年に亘り花粉数の測定を行っていただいている皆様には心から感謝申し上げます。しかしながら、ここ数年、花粉測定を継続できなくなった施設が複数存在し、測定施設数が減少してきております。県内のスギ花粉大量飛散地域である大和町と平生町の施設が、それぞれ 2013 年、2014 年から測定を止められたことも、スギ花粉総数の実測値（県内測定施設の平均値）に多少の影響を及ぼしていると思われます。山口県医師会の花粉情報提供は県からの委託事業ですので、花粉測定施設の皆様には是非とも測定を継続していただきますようお願い申し上げます。また、新たに測定に参加して下さる方も大歓迎致します。

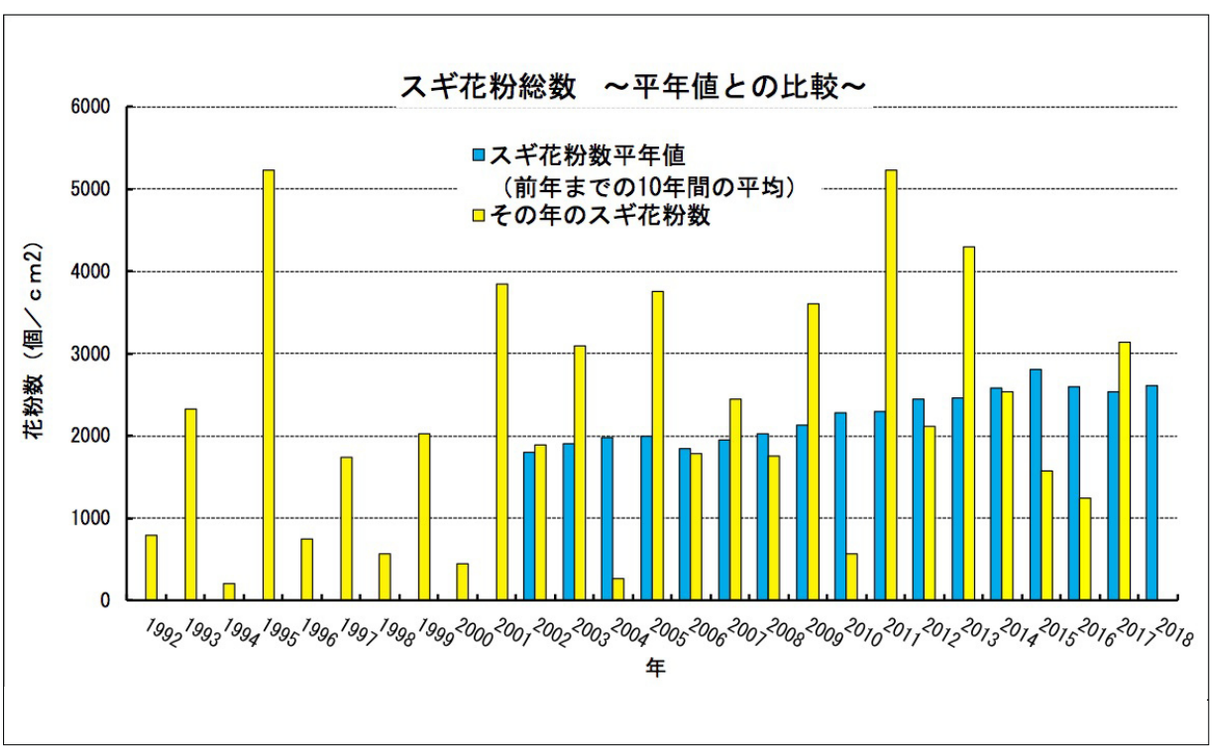



図 4　スギ平年値と実測値